

源となった。その他に、バドミントンは県大会に優勝し、関東高校大会に活躍した。新体操、器械体操ともに県大会に優勝し、またソフトボールが久しぶりで県大会に優勝した。

昭和五十五年は前年のバスケット全国優勝につづけとばかりに、各クラブとも着実に実力をつけ、県レベルから全国レベルに達する年であった。まず、春の全国高校選抜大会には、バスケットボール部は、前年に続く全国二連覇をねらったが惜しくも第三位となった。また、水泳は、五月中旬、インドネシアのジャカルタで開催された国際招待水泳大会に日本代表として、高橋、林選手の二名が招待され、各種目に活躍した。

また、この年のインターハイは八月上旬より松山市を中心として四国四県で行われた。出場クラブは、ハンドボール、バスケットボール、新体操、ソフトボール、バドミントン、テニス一組、陸上一名、水泳の八クラブ、選手八〇名で、本校始まって以来の大部隊を送り出した。バスケットボールはベスト八まで進み、ハンドボールは三回戦、ソフトボールは十五年振りの出場で三回戦まで進みよく健闘した。水泳部は関東大会で三年連続優勝し、インターハイにおいては一〇〇メートル自由形に高橋選手が見事優勝、四〇〇メートルメドレーリレーで第二位の成績をあげ、前年につづいて全国第三位を獲得した。

このように、この五年間の活躍はめざましいもので、高校スポーツ界の名門校として全国的に知られるに至った。

二、全国優勝への道——バスケットボール部——



輝かしい全国優勝表彰式

学院創立以来、各運動クラブが夢にまでみた全国制覇がついに、バスケットボール部によってなされた。この栄冠を獲得するに至ったバスケットボールの戦歴を追ってみる。

宿願の全国制覇成る

昭和五十四年の第九回全国高校選抜優勝大会は、男女各二四校が参加、三月二十二日から二十五日まで五日間にわたり、東京代々木第二体育館など四会場で白熱した戦いが展開された。毎年、優勝候補と目されながら、あと一步で達成できなかった宿願の優勝を東京東亜学園と秒を争う接戦のうえ勝ちとった。昭和五十四年三月二十五日は昭和学院のスポーツ史に残る記念すべき日となった。

全国優勝祝賀会開催

学院関係者すべては、この初の全国優勝をよろこび、輝かしい優勝を祝う祝賀会が昭和五十四年四月三十日、船橋市の長太郎飯店において、来賓・父兄・教職員・卒業生など多数の出席者のもとに盛大に行われた。

三、ハンドボール部の活躍

昭和五十一年十月二十五日から二十九日まで、第三十一回国民体育大会のハンドボール競技は、佐賀県神崎町にて熱戦をくりひろげた。本校ハンドボール部は、単独チームで千葉県代表として参加し、一回戦から順調に勝ち進み、決勝では大分東高校と対戦した。試合は最初本校チームがリードしたが、後半、大分の速攻がさへ惜敗し準優勝にとどまった。

この健闘を祝して、十一月十二日、本学院食堂において、関係者多数出席のもとに盛大に祝賀会が開催された。

四、水泳部の活躍

本校の水泳部は昭和五十一年一月、県下の高校でもまれな室内温水プールが完成して、季節にとらわれないう常時活動と効果的な指導が実を結び、国際級の選手まで生みだすまでに至った。昭和五十二年には千葉県総合体育大会十年連続優勝で表彰を受け、国体においては、県派遣の少年女子の主力選手を多く送り出し、優秀な成績をあげ、千葉県の全国順位上位の原動力となっている。

昭和五十四年度インターハイ第三位入賞

昭和五十三年に続き関東高校選手権で総合優勝した水泳部は、八月十七日から二十日にかけて、大津市で行われた全国高校選手権大会において、総得点三四点をあげ、初めて全国第三位に入賞することができた。

入賞記録

四〇〇メートルメドレーリレー	第二位 (四分四三秒三)	平石、塩川、石黒、高橋
四〇〇メートルリレー	第四位 (四分二〇秒九四)	平石、町田、石黒、高橋
四〇〇メートル個人メドレー	優勝 (五分二四秒〇六)	石黒富美子
一〇〇メートル背泳	第二位 (二分一〇秒六〇)	平石志津子
一〇〇メートル自由形	第三位 (一分二秒六九)	高橋瑞子
二〇〇メートル背泳	第三位 (二分三四秒二七)	平石志津子
四〇〇メートル個人メドレー	第三位 (五分三〇秒六〇)	町田ゆか

入賞祝賀会開催

これを祝して祝賀会が昭和五十四年十月二十日、船橋市の玉姫殿において、来賓、父兄、教職員、卒業生

など多数の出席者のもとに盛大に行われた。

昭和五十五年インターハイ第三位入賞

昭和五十五年全国高校水泳選手権大会は、八月十八日から四日間にわたり、徳島市において開催された。本校水泳部は、前年度インターハイで総合得点三四点で第三位という輝かしい成績をあげて全国的に注目されたが、本年度は一五名の選手を出場させて、つぎに記すように輝かしい記録で、得点二三点を挙げ、前年度と同じく総合第三位に入賞できた。

入賞記録

- | | | |
|----------------|----------------|-------------|
| 四〇〇メートルメドレーリレー | 第二位(四分四一秒三七) | 平石、塩川、高橋、竹村 |
| 四〇〇メートルリレー | 第三位(四分一五秒六六) | 高橋、平石、浅沼、竹村 |
| 一〇〇メートル自由形 | 優勝(二分一秒三一 大会新) | 高橋瑞子 |
| 一〇〇メートル背泳 | 第三位(二分一〇秒九二) | 平石志津子 |

五、昭和学院体育功労章の授与

昭和五十四年十月、スポーツクラブの輝かしい成績を記念して、全国大会に好成績を収めたクラブの指導

者に対し「体育功労章」を贈ることになり、次の方々が受章した。

バスケットボール部監督 西塚建雄

全国高校選抜バスケットボール大会優勝（昭五十四年三月二十五日）

軟式庭球部監督 石川 孝

全日本大学対抗軟式庭球選手権大会優勝（昭五十四年八月五日）

水泳部部长・監督 林恵一郎

// 監督 鈴木賢治

全国高校総合体育大会水泳選手権大会総合第三位（昭五十四年八月十七日）

器械体操部監督 桜井 治

全国中学校体操競技選手権大会総合第三位（昭五十五年十月二十五日）

第九節 表彰の栄誉に輝く

一、学院長、私学教育功労者として文部大臣表彰

伊藤一郎学院長は昭和五十一年十一月二十五日多年にわたり小学校長、中学校長、高等学校長としてわが

国私学教育界のためにご尽力をなされ、そのご情熱を教育にささげた功績をたたえられ、教育功労者として、栄えある文部大臣表彰をうけられた。

式場は東京都道府県会館で、各表彰者が、文部大臣より表彰状および記念品を贈られた。表彰式後、皇居において、天皇・皇后両陛下よりねぎらいのお言葉をいただき、多年の功をたたえられた。

学院長先生は、先に産業教育の功労者として文部大臣表彰、また栄養士養成の功労者として厚生大臣表彰、そして今回の文部大臣表彰と三度目の大臣表彰となった。

特に今回は在職十六年におよぶ小・中・高校長としてその学校経営、教育実践のご功績にたいする表彰であり、常に高邁な教育理想をかかけ、その実現のため、連日全力を傾けてのご努力が社会的に広く認められたことは本学院の誇りである。

祝賀会開催

昭和五十一年十一月二十七日、第二体育館において奨学会・同窓会・全学院の教職員による祝賀会が開かれた。当日は学院長ご夫妻をお招きし、盛大に、和やかな雰囲気の中で先生の受賞をお祝いした。

二、学院長、教育功労者として藍綬褒章受章

伊藤一郎先生は、昭和五十二年十一月三日、長年にわたり私学教育に尽力された教育功労者として藍綬褒



学院長藍綬褒章受章記念祝賀会

章を受章されるという光栄に浴された。褒章の伝達は、十一月十八日、国立教育会館にて、文部大臣により行われた。

今回の受章は、先代理事長故伊藤友作先生の昭和三十三年の受章につづく父子二代の受章という、輝かしい榮譽である。

受章記念祝賀会盛大に挙行される

昭和五十二年十二月三日、午後一時三十分から、本学第一体育館において伊藤一郎先生の藍綬褒章受章祝賀会が、川上県知事、沼田副知事をはじめ、染谷誠、友納武人両衆議院議員、県会、市会関係者、それに県私学関係者や友人、父兄等、六〇〇名にもおよんだ近年まれにみる多数の来賓をお迎えして盛大に挙行された。

式は中山事務長、小笠原小学校主事の司会で始まり、短期大学事務長斉藤先生による開会のことばの後、山崎副校長のご案内で、拍手の中、学院長ご夫妻が会場に入場された。

その後、同祝賀会開催にあたっての発起人を代表して、白井荘一法人理事よりご挨拶があり、つぎに、褒章の披露を山崎副校長が行い、鈴木重行

奨学会会長他からの記念品の贈呈、石井鈴奈母姉会長他からの花束の贈呈とつづき、来賓のご祝詞にうつつた。ご祝詞は、染谷誠、友納武人両衆議院議員、川上県知事、それに教育関係者多数の方々よりいただいた。学院長先生はつぎにご挨拶なされ、受章のよろこびと、これからの決意を述べられ、会場の温かい拍手をうけられた。

この後乾杯にうつり、しばらくご出席の方々との懇談が続いた。快晴の空の下、意義深く、また盛大な祝賀会であった。

第十節 教育施設内容の整備充実

一、創立記念館改装

本校視聴覚館横にある創立記念館は、かつて、本学院創立者である故伊藤友作理事長先生邸宅であったものである。昭和六年に千葉市に建てられ、市川市菅野には昭和十八年移転された。以来数回の補修を行ったものの、ややいたみもひどくなったため、創立四十周年に際し全面的に内部の補修工事を行うことになった。昭和五十四年六月より工事が進められ、柱の傾斜をなおし、アク抜きをし、戸障子をアルミサッシとし、畳を入れかえるなどしてみちがえるような化粧直しがすんだ。あわせて、周辺の庭園にも手が加えられ、すば

らしい和風庭園に生まれ変わった。改修後は、記念館の使用規程を作り、一〇名以上の生徒が一度に使用することのないようにと、永くこの建物を保存するために細心の留意を払うこととなった。

二、文化クラブ会館建設

昭和五十四年度の教育目標の一つに、クラブ活動の奨励、発展があげられている。特に文化クラブの活動を高めるためにその活動センターとして部屋をつくり与える必要がある、文化クラブ会館を建設することとなった。場所は新芸術館の完成にともない不要になった旧芸術館の跡地で、建築面積七〇坪、鉄骨プレハブ二階建てで一〇室が設計された。

昭和五十四年十月十八日に着工、十二月八日に完成した。文化クラブ総数二四の内、どのクラブを会館に入れるかというところが問題であったが、常時活動をしているクラブの中から選び、一階には、ギター・吹奏楽、新聞、映画、写真の各部が、二階には、演劇、社会科、児童文化、フォークダンスの各部にボランティア委員会の入室が決定した。

十二月二十四日に新築のクラブ会館に移動を終え、文化部の



完成した文化クラブ会館

センターとしてその活用が期待された。

第十一節 創立四十周年を迎えて

一、創立四十周年記念事業

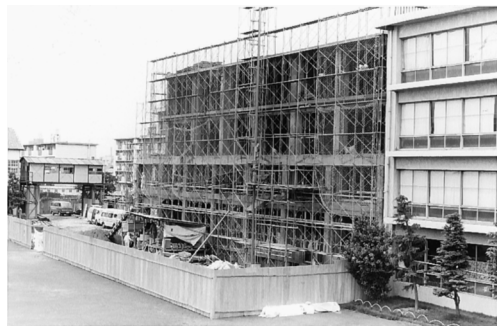
芸術館新築落成

創立四十周年記念事業の一つとして芸術館が建設されることになった。

既設の芸術館は、昭和二十七年度に建築された二階建てのもので相当老朽化しているので、生徒の芸術的な教養と美的情操の育成には芸術館の

新築が関係者の大きな期待であった。昭和五十四年九月に芸術館等建設委員会が組織され、十二月までに、五回にわたる会合が重ねられ、五二二坪の基本設計を終え、年が明けて実施設計に移った。建築工事は、旧理科館の敷地に建設するため、五十五年三月下旬、校庭に面する最後の木造校舎である旧理科館の取り壊しから始められ、三月二十六日に地鎮祭が多数の来賓をお招きして厳粛に行われた。

工事は順調に進み予定通り九月十一日に完成、引渡しが行われた。新芸術館の特徴は、一階に美術室が二



建設中の芸術館

室あり、それぞれの教室のスペースは広く、普通教室の約一・五倍（三四坪）の面積であり、写生等には十分なゆとりをもっている。採光にも特別の配慮をし、また、スライド映写などを考慮して、暗幕、スクリーンの設備が完備された。また、二階に美術展示室というユニークな特別室を設けた。これは、絵画鑑賞を一步進めるために設けられたもので、床には絨緞を敷きつめ、照明効果なども工夫した画廊風の陳列施設である。同じ二階に音楽室を三室設けた。それぞれ音響について細心の注意を払い、窓は二重とし、天井は波状をなしており、防音、音響の二面が配慮された。ステレオ施設は三室とも整備し、また新築の機会にピアノを新調した。楽器練習室は同じ二階に六室をつくり、各室とも防音処理をして、ピアノ、エレクトーンの練習用に供している。一階二階にはそれぞれ準備室を設け、三階四階には生徒数増加のため、普通教室六室が新設された。

大町グラウンド建設

創立四十周年記念事業として、大町グラウンドの建設も行われた。五カ年計画で、用地の決定、買収を進めてきたが、幸い地主の方の協力も得られ、昭和五十五年二月に当初計画を上回る用地買収を完了することができた。買収面積は約一万坪と広大で、一部畑地を含む山林である。場所は市



完成した広大な大町グラウンド

川市の北部、大町地区の自然公園の東南側にあり、学院からも近距離にあり、台地で環境のよいところである。その造成計画は、全体を二段に造成し、下の部分に四〇〇メートルトラック、フィールドに陸上関係その他ハンドボールの施設、上段にテニスとバレーボールのコート、ソフトボールの競技施設を整え、用具室、トイレ、脱衣室、シャワー室、休憩室等の付属諸施設も備えた近代的な一大総合グラウンドである。

大町グラウンドの開場式は、十一月二十九日、高橋市川市長を始め、多数の来賓臨席のもとに盛大に行われた。この日は、夜来の雨で開催が危ぶまれたが、幸いにも午後になるとすっきりあがり、開場式はとどきおりなく終了した。

なお、この工事の全体的な造成は佐野土木、スポーツ施設は武井スポーツが担当、朝日設計事務所が監理のもとに施工された。

記念図書館新築落成

さらに、創立四十周年記念事業の一つとして計画された独立図書館の建設は、従前の図書室を一段と拡充し、その利用度を高めるために、できるだけ利用しやすい場所を選び、施設設備を一層整備し新築されたものである。この計画は十年前から考えられてはいたが、実現できずにいた。

工事は、昭和五十六年三月三十一日に終了、旧図書館からの移動、整備



新築された独立図書館

をして、四月十日に開館され、六月二十日には、その披露宴が挙行された。

二、創立四十周年記念式典挙行

創立四十周年記念式典は、昭和五十五年十一月十五日、稀に見る晩秋の良い日和に恵まれ、一、六〇〇名を超す来会者の中、盛大に挙行された。

式典は、ニューフィルハーモニーの交響樂の流れる中、開式・校歌斉唱に続いて、学院長から式辞がのべられ、続いて工事関係者及び永年勤続職員八六名に表彰状が授与された。

続く来賓の方々の祝辞は、石橋文部政務次官を始め、川上千葉県知事、高橋市川市長他多数の方々から寄せられ、本学院の発展が祝福された。最後に、創立四十周年の祝歌が美しく流れ、明るく和やかな雰囲気の中、式典は幕をとじた。式典後、第一・第二体育館において祝賀会が催された。

この記念式典の前日、十一月十四日、学院内の式典が行われた。これは、幼稚園・小学校、中学・高校、短大・栄専と三部に分けて催され、式典後、幼児・児童、生徒、学生のそれぞれに記念品が贈られた。



創立40周年記念式典